

英ジョンソン新首相のもとでのBrexitの行方をどうみるか

— リスクシナリオである「合意なき離脱」の可能性が上昇 —

(1) 一般党员による決選投票の結果、強硬離脱派のボリス・ジョンソン氏が保守党の党首に選出される見込み。ジョンソン氏は、EUとバックストップ条項を含めた離脱協定の再交渉に臨むとしながらも、合意の有無にかかわらず、10月末までに離脱すると明言。EU側は政治宣言以外の交渉には応じない方針を堅持しており、合意なき離脱のリスクが高まりつつある状況。

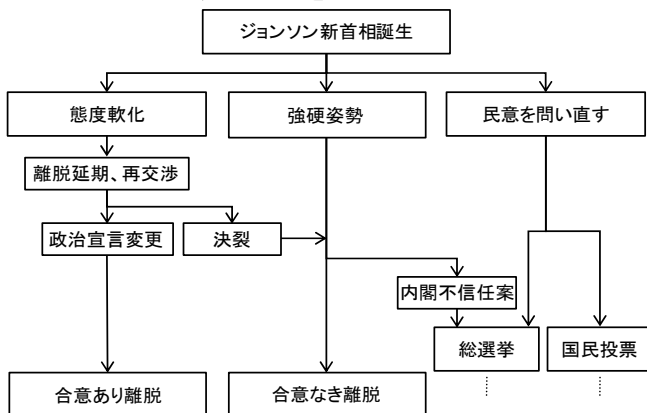
(注) バックストップ条項とは、離脱交渉がまとまらなかった際に、アイルランドと北アイルランドの国境において混乱が生じることを回避すべく、一時的に英国がEUの関税同盟にとどまることを規定したものの。

(2) 当社のメインシナリオとしては、引き続き合意なき離脱は回避されると想定(図表1)。英国景気的大幅な下振れへの懸念などから、英国国民の多くは合意なき離脱を望んでいないため、世論や議会の圧力を受けたジョンソン氏が態度を軟化させると予想(図表2、3)。EUも譲歩して離脱期限が2~3ヵ月延長され、バックストップの発動が英国の永続的なEU残留につながるよう両者が協力する旨を政治宣言に盛り込むことで、合意に至る展開を見込む。

(3) ただし、ジョンソン氏を支持する保守党員の期待に応えるべく、同氏が強硬姿勢を堅持する可能性も拭えず。その場合、議会が合意なき離脱を阻止する手段は内閣不信任案しかないが、保守党・労働党の支持率が大きく低下しているため、議会解散に伴う総選挙での敗北を警戒する議員が不信任案の提出・可決に躊躇すれば、なし崩し的に合意なき離脱が現実となる恐れ(図表4)。

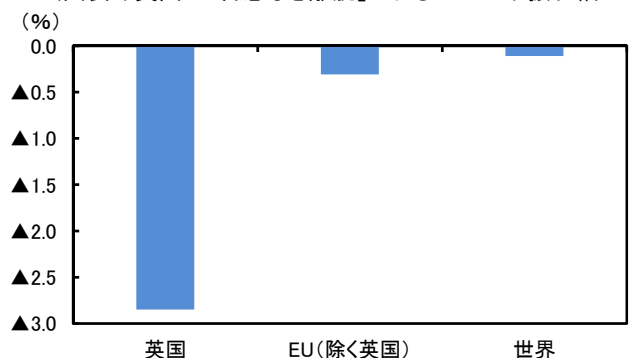
(4) 一方、強硬離脱に対する議会の反発を受けたジョンソン氏が改めて民意を問う手段として、解散総選挙や2度目の国民投票を行うというシナリオも存在。その場合も、Brexitに対する英国国民の意見が大きく割れていることから、強硬離脱が支持されるかどうかは不透明。

(図表1) Brexitをめぐるシナリオ



(資料) 英国政府、各種報道等を基に日本総研作成

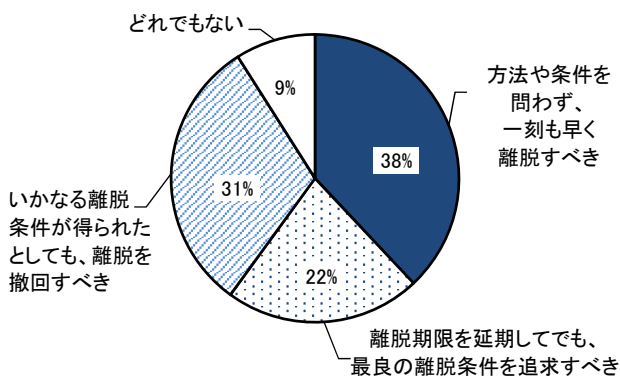
(図表2) 英国の「合意なき離脱」によるGDPの下振れ幅



(資料) IMF "World Economic Outlook, April 2019"

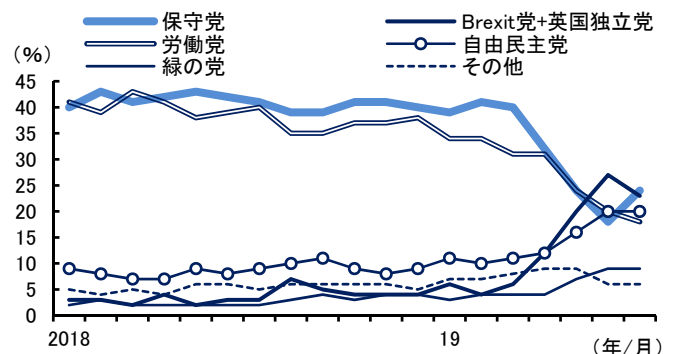
(注) 2019年4月時点のメインシナリオ(合意あり離脱)対比、長期的影響

(図表3) Brexitに対する英国国民の意見



(資料) Opinium "Political Polling 3rd July 2019"

(図表4) 英国の政党支持率



(資料) YouGov "Voting intention"

(注) 調査が1ヵ月に複数回行われていた場合は、その月の初回の結果を図示。

【ご照会先】 調査部 研究員 高野蒼太 (takano.sota@jri.co.jp, 03-6833-9082)